

平成 23 年 4 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 23 年 第 3 回講話

#### 言葉の力

先ほどの代表幹事が運・不運という話をされましたので、皆さんにお聞きします。

私は運が良いと思う方？

(・・・多数手が挙がる)

私は何と運が悪いのだろうと思う方？

・・・一人もおられません。結構なことだと思います。自分は運が良いと思う気持ち、念が強烈にあればあるほど、運とは更に良い循環をもたらしてくれると思います。私は運が悪いと思うと、どんどん運が悪くなると思います。

菅さんを見ていると、あれだけ退陣しろという声が多いにもかかわらず、実に運の良い人だと思います。引きずり降ろされる寸前になったら大震災が起きて、座に留まって、内閣支持率も上がりました。本人のやることなすこと皆裏目に出て、怨嗟の声が満ち溢れているにもかかわらず、“自分はたいしたものだ。皆、私の真価が分からないのか...” と思っているから延命していると思います。しかし、もうそろそろリーダーのバトンタッチをする時だろうと思います。

今回の菅さんの動きを見てつくづく思うのは、本当にリーダーシップの発揮できる人がリーダーの座につかないと、その組織は不幸だと思います。日本国民は今回、菅さんが内閣総理大臣であったことによって受けるマイナスがあまりにも大きいと思いました。ただこれは前から申し上げているように、日本の国がどんどん落ちていく、経済が悪化する状況にあって民主党はその加速度をつける役目だと思っていますから、菅さんも出るべくして出た総理大臣なのだと感じています。私は今年の年賀状で、「今年は辛卯(しんぼう)の年。辛は辛く・酷く・苦しい。卯は犠牲の羊が沢山死ぬ。日本の社会・経済は大悪化の年回り」と書きました。私は暮れに起きるであろうという予測をしていましたが、あまりにも早すぎたと思っています。

大震災は当分きりがつかないでしょう。政府の動きがあまりにも遅すぎるので、どんどん被害は拡大する一方だと思っています。日本だけでなくどこの国でもそうですが、緊急事

態が発生した時には、まず言葉が重要です。今回の地震は最初に「東北地方・太平洋沖大地震」と命名しました。ところがその後、震災の名前を各新聞やテレビ局では勝手に思い思いの呼び名をしていました。これは国が乱れるものです。言葉は言霊（ことだま）です。言葉が乱れると行動も乱れ、組織も乱れます。言葉の統一がまず必要で、政府はそれを放り出していた。3月31日になってやっと「東日本大震災」という発表を菅さんが致しました。言葉が乱れきったところで、やっと一つの定義付けを出した。それに合わせて、一変に言葉の統一がされました。やはり言葉は大切です。言葉を大事にしないと後々困ります。

## 政を問う

今朝の幹事会では、福田理事が講義をして下さいました。福田理事の資料「素読七選」を拝見して、良いなと思った論語があります。

子貢 政を問う。子曰く、食を足し、兵を足し、民之を信ずと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の三者に於て何れをか先にせんと。曰く、兵を去らんと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の二者に於て何れをか先にせんと。曰く、食を去らん。古 自り皆死有り。民信ずる無くんば立たずと。

子貢が政治の要諦を孔子に質問しました。それに対して孔子が答えています。これを今の大震災に合わせて解釈してみましょう。

「食を足し」・・・大震災という目にあったなら、被災者に対してはまず食べ物を届けよ。ところが今回の日本政府の政は落第です。交通網が遮断されているのですから、ヘリで食料を避難所等にピンポイントで落とせばよいのです。食べ物が届かない被災地が如何に多いか。今でも届かない所があります。酷い話ですが、日清食品がカップ麺を15万食、経済産業省に言われて自衛隊の入間基地に届けたところ、自衛隊はそういう連絡も受けていないし予定も組んでいないということで断ったというのです。組織というものは、上から指示・命令が来ないと動けない。経済産業省の詰めがきちんと出来ていなかったのでしょうか。

今朝の新聞に、3日間水に囲まれて孤立してしまった被災地の人たちが、流れてきた箱入りの冷凍魚を焼いて飢えを凌いでいた、という話が載っていました。別の記事で、現地で診察にあたっている大学の医療チームが足りないものを送ってもらいたいと政府に頼んだところ、知事を通じて連絡をくれるように言われて、結局、医療用品が届いたのは10日後だったそうです。その間、間に合わないの民間の業者に頼んで送ってもらったそうです。政府を経由すると、まともに食べ物や飲み物、医療用品も届かないという現実です。

「兵を足し」・・・今回は自衛隊が動きました。10万人プラス予備軍の6千人です。これは菅さんが命令を出したから動いたので、この点は評価できます。ただ、出動命令だけでよいのに、官邸は細かい事を言い過ぎたようです。放水車両を何台出して、何時から放水を始めよ...というような、実際に現地に行かなければ分からないようなことを官邸で細かく指示を出し続けていたが為に、現場は混乱した。「兵を足す」というのは、その為に動ける人員をどれだけ出したかということです。政があまり具体的なことを指示し過ぎてはいけないということです。

「民之を信ず」・・・政府がやるのだから間違いない。菅政権がきちんとやってくれるから大丈夫だろうと、国民が信ずるかどうかがです。

次に子貢が、どうにもならない時には3つのうちどれを削りましょうかと孔子に聞きました。

「兵を去らん」・・・自衛隊・警察・消防、これらは当面動かなくても良い。

更に、子貢がその次は何を削りますかと聞きました。

「食を去らん」・・・食べ物を我慢しよう。実際に被災地では一日1食だったり、朝と晩だけとか、一日におにぎりやパン1個というような話を聞きました。とりあえず命をつなげれば、食を減ずるのは致し方ないと思います。

最後に、「民信ずる無くんば立たず」・・・国民が政府を信用しなくなれば、その国は滅びるしかない。

今回は、日本の国が滅びるかどうかという一つの問いかけがなされたのだと私は感じています。ただ菅政権でリーダーが代われれば、又、変わってくるだろうと思っています。遠からず菅さんは降りて、誰か別のリーダーに代わるだろうと思っています。

今回の震災で、日本人は何と素晴らしい国民だと他の国から見られています。落ち着いて行列を作り食料の配布を待ったり、暴行略奪がない。素直に運命を甘受しながら、皆で思いやりを持ちつつ生き抜こうとしている国民だということで、世界中から多くの義援金が集まってきたのだと感じます。更に、今まで日本があちらこちらの国々に色々な援助をしてきたことも、今回お返しとして目に見えないものも来ていると思います。現実には、日本の国はそれに値する国だということがメッセージとして発信されています。ただ、日本の政府は酷いというメッセージもついています。やはり一国のリーダーは、それなりの人物が就かなければいけないと明確に示した事例だと思っています。

今、幸せ？

では、恒例の質問を致します。

震災以降、嘘をついていない方？

嘘をつかない日々がずっと続いているのが良いですね。

震災以降、今日は良い日だったな思うのが続いている方？

始めてお聞きしますが、最近私は昼間時々、「今幸せ？」と自問自答しています。寝る時は「今日は幸せだった？」という具合です。

今、皆さんは幸せですか？

食べるものが食べられて、飲むものが飲めて、布団に入って眠れる。これは幸せですよ。そういうものが欠けると、普段どれだけ幸せだったかつくづく感じるものです。

### 今日の論語

論語の解説を致します。本日は述而第七 26～32 です。

【二六】 子 釣し ちょうすれども網こうせず。弋よくすれども宿しゆく いを射いず。

孔子は、釣りはするけれども網は使わない。寝ている鳥は射ない。

根こそぎ魚や鳥を捕るといった、度を越した殺生はしないということです。

今の日本でも、魚を捕る場合でも根こそぎ捕ることはしていません。必ず次の世代、次の人たちを考えながらやっているのも良いことだと思います。

【二七】 子曰しいわく、蓋けだし知らずして之しを作なず者ものあ有われらん。我われは是これ無なきなり。多おおく聞ききて其その善よき者ものを択えらびて之これに從したがい、多おおく見みて之これを識しるす。知しるの次つぎなり。

孔子が言うには、道理を知らないでことを起こす者がいるけれども、私はそういうことはしない。歴史をよく調べて、良いこと悪いことを自分なりに判断・記憶し、常に良いと思うことを選んで実行するようにしている。記憶、そしてメモをとることは、生まれながら道理を知っている者の次と言えよう。

私は学んで自分を完成させようと努力をしている人間なのだ。決して最初から色々なものを承知して生まれてきたわけではない。一歩ずつ色々なことを学んで覚えていく人間だ。ただ他の人と違うのはスピードが尋常ではない。他の人が怠けている時にも怠けたりしな

いで自分の考えているスピードで学んでいく。このように読めばよいと思います。

自分自身に置き換えて考えて下さい。良いと思うことを実行する時はすぐにやる。良いと思うことは明日に延ばさない。少しでもよいから、今日のうちにやっておく。そうすると身体に染み込んできます。

東京フォーラムで震災の話をして戴いたのですが、食べ物・飲み物の準備をしていたのであまり困らなかったという会員さんがおられました。私の話を聞いて、色々と準備をしていたという人と、いい話を聞いたなあ...で終わってしまう人がいます。良いと思うことは、少しでもよいからやっておかれるとよろしい。

【二八】 ごきょう とも い がた どうじ まみ もんじん まど しいわ そ すす ゆる  
互郷 与に言い難し。童子 見ゆ。門人 惑う。子曰く、其の進むを与すなり。  
そ しりぞ ゆる ただ なん はなは ひと おのれ いさぎよ もっ すす そ  
其の退くを与さざるなり。唯 何ぞ甚だしき。人 己を潔くして以て進まば、其の  
いさぎよ ゆる そ おう ほ  
潔きを与すなり。其の往を保せざるなりと。

風俗がよくないという土地柄の村から、少年がやって来て孔子に面会した。門人はどうしてお会いになるのかと戸惑った。孔子が言うには、学びたいと進んで私の元に来る者に私は会うし、教える。後でそむいて去っていく人間を許さないというのは、何と度量の狭いことか。

学びたいという者には門戸を広げ、去っていく者を許さないというのはいけないことだと門人を戒めています。人が自分の心をまっさらにして学びたいと思って来るのであれば、その潔い心根を評価して学ぶことを許す。その人の過去を追及して、今まで駄目だから未来も駄目だろうなどという予想はしないということです。

今朝、東京から戻る電車の中で週刊誌を読んでいましたら、今回の震災でラブホテルが非常に役に立っていると書いてありました。お風呂に入れて、泊まることもできる。ラブホテルの経営者の談で、「ラブホテルを開放しているのでお出で下さいと胸を張って堂々と言える。被災者の役に立てて嬉しい」と書いてありました。非日常社会になると、既成概念はなくなりますね。その人その人の心根・人柄が出てきて、世の中の役に立とうと思い、実際に役に立っている。非常事態の時には、それがあからさまになります。その人の性質が出てくるのでしょう。良いことだと思います。

【二九】 しいわ じん とお われ じん ほっ ここ じんいた  
子曰く、仁 遠からんや。我 仁を欲すれば、斯に仁至る。

孔子が言うには、仁とは遠いところにあるのだろうか。いやいや自分が本気で仁を求めれば、すぐに到達するものだ。

青い鳥の話と同じです。青い鳥を探しにチルチルミチルが出かけて行って、様々なところを回ったけれども、何のことはない自分の足元にあったという話です。仁を求めて艱難辛苦の旅を続ける。けれども自分が本気で仁を求めれば、そんなに大それたものではない。手に入るものなのだと孔子は言っています。

仁とは思いやりが持てる人と考えた時に、仁の心根を持つ人がなんと日本に多いものか、世界にも何と多いことかと今回の震災でつくづく感じさせられました。ただ、義援金に関して申しますと、寄付を強請しているような募金活動が結構あります。これはあまりいただけないと思います。義援金・寄付金・支援金と三通りあります。義援金は被災した人に直接届けられるお金です。寄付金とは自治体に入って、被災者にも届けられるし、活動費にも使われます。支援金とはNPOのような団体に入って、援助物資になったり、当然その団体の人たちの活動費にもなる。自分が出すお金がどういう内容のお金なのか、最終的にどのように使われるのかを考えて出せばよいと思います。それとは別に、ふるさと納税のように控除の対象になるような寄付もあります。最近あまり騒がれませんが、なぜもつと大声で言わないのかと思います。

ただこれではっきり分かることは、阪神大震災をはるかに上回る規模のお金が集まっています。これを分配する機能が、政府にあまりにもなさ過ぎる。スピードが求められているのに、まだ被災者の手元に渡っていませんね。ゴールデンウィークの前には被災者に配りたいと言っています。最初の頃は3月末とか4月末ということでしたが、どんどん遅れています。私が知っている限りでは、笹川財団が死者・行方不明者一人当たり5万円を見舞金として遺族に配ったとありました。先々の50万円より、今日の5万円の方が被災者にとっては必要なはずです。ですから仁も、政のあり方によって、仕組みの作り方によって、欲するところになかなか届かないなと今回の反省点を感じました。

【三十】 陳ちんの司敗しはい 問とう、昭公しょうこう 礼れいを知れるかと。孔子こうし曰いく、礼れいを知れりと。孔子こうし 退しりぞく。巫馬期ふばきを揖ゆうして、之これを進めて曰すすく、吾いわ 君子くんしは党とうせずと聞きけり。君子くんしも亦また党とうするか。君きみ 呉ごに取り、同姓めとなるが為ために、之これを呉孟子ごもうしと謂いえり。君きみにして礼れいを知らば、孰たれか礼れいを知らざらんと。巫馬期ふばき 以もつて告つぐ。子曰しく、丘しゅう や幸さいわいなり。苟いやしくも過あやまち有れば、人ひと 必ず之これを知ると。

陳という国の司法長官が孔子を試したのです。

陳の司法長官が孔子に「魯国の君子は礼儀を知っている人物か」と聞きました。孔子が、「当然知っている人物です」と答えた。

孔子が帰った後で、孔子の弟子の巫馬期を呼んで、「君子（孔子を指しています）というのは非を隠さないと聞いているけれども、身贖罪をするものか。同姓同志は結婚しないものなのに、魯国の昭公は同姓の女性を娶った。しかも自分が後ろめたいものだから、呉孟子と言い換えている。これは魯の昭公が礼儀知らずだからではないか」と言った。

それを巫馬期が孔子に告げたところ、孔子が「私は幸せ者だ。自分が間違えたなら、注意してくれる人がいるというのは有難いことだ」と答えた。

中国という国は、子供が何か悪さをすると親が子供をかばい、親が悪いことをすれば子供がそれをかばうのが当たり前です。誰かが出世をすると、それに連なって一族郎党が良い思いをする。同時に悪いことをしたら、皆でそれをかばおうとする。孔子もそういうお国柄の中で生きている人間です。昭公という君子が同姓の呉の国から奥さんを貰って、世間のルールをちょっと曲げたけれども、それは人間性を真向から否定するようなものではないので、眉をしかめる程度で片づけよう、あまり余計なことは言わないでおこうよ、と軽くいなしたわけです。

【三一】 し ひと うた よ 子 人と歌いて善ければ、かなら これ かえ 必ず之を反さしめてのち これ わ後に之に和す。

孔子は歌が大好きで、良い歌を聞いたならもう一度歌ってもらい、自分も一緒に声に出して覚えようとする。

【三二】 しいわ ぶん われ なお 子曰く、文は吾猶 ひと ごと な人の猶きこと莫からんや。み くんし おこな躬君子を行は、すなわ われ則ち吾 いま これ う あ未だ之を得ること有らず。

孔子が言うには、学術について私は人並みに出来ないことはない。私は君子というべき人の行いをしようと一所懸命努力しているけれども、まだ出来てはいない。

孔子が、努力をしてもまだ足りないと言っているのだから、自分ももっと努力しなければいけないとそれぞれの人が思います。渋沢栄一さんは孔子の真似をしたい・孔子のよ

うな努力をしたいとずっと言い続けて実行していった人です。論語を最大限活かした人物だったと感ずます。

### 何とはなしに、そう思う

今日ご紹介する本は木内信胤先生の『日本よ、こう進め』です。国のあり方の基本について書かれていますが、木内先生は「私は祈りの言葉でこの本を書いた」と紹介しています。日本という国はこう進まなければいけない。日本にどうしても必要な農業と林業に、どう対峙していくかという提言が書かれています。

この本で木内先生は、日本人は特殊な民族で、〈何とはなしに、そう思う〉ことが暗黙のうちに伝わる。そして納得できる珍しい民族だ。何か物事が起こってから、〈こういうことだから、こうなった〉と学者は屁理屈をつける。これが世界の大勢だけれども、日本人はそうではない。〈何とはなしに、こうなった〉という思考形態を持っている珍しい民族だから、これからの世の中のリードしていくようになるであろう。それを日本人は自覚しなければいけないと書いています。

20 年位前に木内先生は「アメリカはこれから驚くほど落ちるよ。なぜならばアメリカは何でも理屈・理屈で来る。〈何とはなしに〉というものの捉え方が出来る民族が、世界のリードしていかなければならない」と言っておられました。

木内先生の本を取り上げるのは今回で3回目です。木内信胤先生のものの考え方は今の時代、非常に役に立つと思いますので紹介致しました。

### 東日本大震災から学ぶ

先週の東京フォーラムで、今回の大震災を経験して日常の生活習慣を変えましたかという質問をしたところ、普段はパジャマを着て寝ているけれども、何かあったらすぐに外に出られるような格好で寝るようになったという人がおられました。

私自身は普段からやっているのですが、震災以降、意識して外に出かける時には飲み物と食べ物、そして体力を気にするようになりました。渡邊五郎三郎先生が先月の合同フォーラムで、震災の時、新幹線に6時間缶詰になって、雪のちらつく中を2時間線路伝いに歩いたとおっしゃっていました。先生は鎌倉にお住まいで、普段から出かける時には家族の付き添いも断って、御一人で歩いて出かけておられるそうです。御年92歳ですから、たいしたものだと驚きます。私も見習って体力を維持していなければいけないと、今回つく



づく思いました。

それと皆さんにご紹介したいのは、王子にある北区防災センターで地震の体験が出来ます。私は実際に行って、関東大震災の揺れを体感して来ました。壁に背をつけて踏ん張って座っていても、壁が私の背中をどーんと押し飛ばすような揺れでした。それから比べると阪神淡路大震災は、それほどでもないと思いました。やはり体験しておくのが良いですね。揺れを体験できる起震車というものもありますが、揺れ方が柔らかいので、王子の施設をお勧めします。実際の揺れを自分の身体で味わっておくと、地震が来た時に、どの程度のものか、建物の中にいるべきか外に出るべきか、この柱は大丈夫か...といったことを瞬間的に考える癖がついて来ます。

### 政府の発言は本当か？

冒頭に、言葉を氣をつけなければいけないと申しました。今回、政府の発言に信用がおけるでしょうか。これも合同フォーラムで安岡顧問が「小さい時に大本営発表なるものを聞いた。何だか訳が分からなかった。どこまで信用してよいか分からないのが大本営発表というものだということを、小さい時に身体で覚えた。今回の政府の発表もまさに同じで、どこまで信用してよいか分からないという実感を持った。何と情けない国家だろうと感じた」と挨拶されました。

どこまで信用してよいか分からないようなことを政府が発表する。これは悲しいですね。特に原発に関するもので、避難指示・屋内退避・計画的避難・・・という発表が次から次にされています。ミリシーベルトという単位も分かりづらい。今回の避難指示は50ミリシーベルトを超すと出るようですが、20キロ圏内がそれに該当する。屋内退避は10ミリシーベルトから50ミリシーベルトです。計画的避難区域というものは、20ミリシーベルトだそうです。シーベルトって何なのか？ どういうものなのかまるで分からないけれども、いつの間にかやら当たり前になってきた。

言葉は怖いと申しますのは、今回の計画的避難の20ミリシーベルトというのは、20000マイクロシーベルトと同じだそうです。20000マイクロシーベルトというと、もの凄く大変な数値のような気がしますが、20ミリシーベルトとなると、ミリという単位は馴染んでいますからたいしたことはないと感じてしまう。言葉の錯覚は怖いと思います。新聞やテレビを見ていると、政府はこれを意図的に使い分けています。シーベルトというものの説明もないし、どういう状況になるかという説明もないし、放射性物質の説明もありません。まさに大本営発表で、何が何だか分からないようなことを政府は言い続けています。枝野

さんや原子力保安院の人が発表していますが、皆、素人です。原子力保安院については官僚ですから、2年で移動するなかでたまたま今回の地震に当たった事務屋さんが、専門家のような顔をして出てきて喋っているだけです。同じ原子力保安院の審議官で中村さんという方が、先日ウィーンで開かれた国際原子力機関（IAEA）の各国外交団向けの技術説明会に呼ばれましたが、その最初の発言は、「原子力は制御中です」だったのが、「制御に努めています」になり、最後は「詳しくは存じません」となった。素人で知らない人が、知ったかぶりをして、世界の専門家が集まる会議に出れば出るほど、日本の信用は地に落ちます。幸いにして日本だから、西山さんという審議官が薄ら笑いをしてテレビに出続けていますが、あの人は色々なことを質問されても、えへらえへらとはぐらかしてその場を収める能力があるから選ばれたのです。そんな人選をしている政府は、困ったものだと思います。

いずれにしても今回の震災で、復興にどれだけお金がかかるか分からないと感じます。お金を生み出す為の方法として、今朝の新聞を見ますと、消費税を数%上げるという案・復興国債なるものを発行する案・個人の所得税を10%上げるという3案が出ています。氣にくわないのは、政府が前面に立ってやっているのではなくて、色々な会議を作って、そこでアドバルーンを揚げさせて、様子を見ながらどれかに食いつこうというのが透けて見えることです。

ちなみに関東大震災では、後藤新平という人が内閣に入って、帝都復興院を作り総裁として権限を一手に集中させて復興の道筋をつけました。新しい東京市を作るべく、まるっきり別のグランドデザインを描いて必要なお金を集めました。与野党対立の中で多くの予算を使えなかったけれども、今の東京の町並みは後藤新平が描いた青写真のように進んだわけです。

政府が発表するものは皆、本当かな？ と思って見ざるを得なくなっていること自体、非常に不幸なことです。原発によって、日本人はガンになる確率が高くなったのではないかという疑心暗鬼が相当広がっていると思います。気象庁では、上空の風の流れや様々なデータから今日の放射線量を予測して、外国には発表していました。外国に発表してなぜ日本国内に発表しないのかという声が跳ね返って、慌てて政府は発表をするようになりました。なぜ情報を隠すのでしょうか。政府にとって都合の悪いものは数字を変える、或いは数字そのものを隠蔽するのではないかと、という疑心暗鬼が国民にあまりにも広がり過ぎました。

私は洗濯物を外に干してあるのを見ると、大丈夫かなと思ってしまいます。最初、NHKのニュースでは「20 キロ圏内の住民は直ちに避難して下さい。外に干してある洗濯物には触らないで下さい。すぐに逃げて下さい」とアナウンサーが言っていました。確か3月13日か14日だったと思います。そういう言い方は、その後ありません。発表の仕方を変えさせたのだと思います。「干してある洗濯物を取り込まないで下さい。触らないで下さい」という表現は、より具体的でリアルです。それが頭の中に残っていて、政府が発表していない放射性物質がきっとあちこちに出るのだろうなと思っていた矢先、出荷制限のニュースです。群馬県でも、かき菜やほうれん草が出荷制限になりました。これは目に見えない形で放射性物質が飛んで、汚染されたわけです。風評被害・風評被害と言うけれども、政府が煽っているとしか考えられませんが、出荷制限をしておいて、「食べても、直ちに健康に影響はありません」というのは、いったい何年なのか、皆、思っているわけです。チェルノブイリの事故の後、被爆した人がどれくらいでガンが発生したのかを調べている人がいますが、子供さんで4、5年くらいのようなようです。「直ちに被害はない」と言われると、4、5年経ったら症状が出るのかと思ってしまいます。専門家からすると、そんなことはないと言っていますが、具体的な根拠のある話はどこからも出てきていません。

ですから自分で自分を守らなければいけないと思います。洗濯物を外に出さないとか、自衛手段として、食べ物や飲み物を余分に買うというのは、人間の心理として当たり前だと思います。政府が自粛を呼びかける買いだめ・買占めというのは、それを売って利益を得ようという考え方の買いだめ・買占めであって、自分や家族の身を守るために動いているのは違います。

### 自衛手段

自衛手段ということで、もう少し申します。今回、計画停電という名前の無計画停電を東電がやりました。最初に発表したとおり、せめて4月いっぱいはやればよかったと思います。そうすれば日本人の意識、特に首都圏(もっとも23区は計画停電がありませんから、無理な話かもしれませんが・・・)の意識が変わります。

私も停電で夕方から真っ暗になりましたから、寝てしまいました。寝ながら考えたことは、電気がこないとこれだけ困るのだと思いました。ならば電気のない生活に戻せばよいのではないかと思います。昭和の前半を考えれば、そんなに難しいことはありません。どうしても電気が必要なら、東電から買うのを止めればよいのです。太陽光発電とか、家庭で出来る電力に切り替えればよいのです。

ガソリンを買うにも大変な行列でしたから、それならガソリンのない生活をすればよいのだと思いました。ならば電気自動車がある。それ以外のガソリンを使わない車もこれから出てくるでしょう。又は、車そのものを使わなければよいと感じました。オートバイや自転車を使ってもよいのです。

スーパーやコンビニで食べ物が買えないという状況も困りました。最初私は自給自足をすればよいと思っていましたが、原発の問題が起きてからは、これもなかなか大変だと思います。

その他、今後の動きで自分自身に必要なものとして、体力のチェック・食べ物や飲み物・ラジオ・携帯電話・懐中電灯・テレカです。震災当日、私は上野から聖橋まで歩いたのですが、公衆電話にずらっと行列が出来ていました。公衆電話もテレホンカードがないと繋がりません。そういう物を常に持ち歩く姿勢を、今後つけるとよいと思います。

### 想定外

政府も東電も「想定外」という言葉を言い続けています。何を言っているのかと思います。想定外という言葉がリーダーが言ってはいけません。会社を経営している人からみれば、小さい想定外、大きな想定外が毎日沢山起きるはずで、しかしトップは何か問題が起きたら全ての責任を取らなければいけない。想定外だから責任は取りません、というわけにはいかないのです。

そもそも今回の原発事故に関しては、想定外ではありません。5年くらい前に経済産業省中の専門家が集まった会合で、大津波がやって来た時には今の原子力発電所はひとつたまりもないという指摘をされたのですが、そういうことは想定しないということで終わってしまった。更に2年前には、国会で共産党の議員が同じことを質問しています。しかし木で鼻をくくったように、「専門家が集まって計画を立てて、原子力保安院がチェックをして大丈夫だと言っているのだから、そういうことは想定いたしません」と政府も東電も答えています。それで想定外が起きたというのですから、ふざけるなと言いたくなります。想定外という言葉を使うのは、私は無能である・無責任であると言っているのと同じだと思います。

翻って我々も自分自身に置き換えると、想定外が起きた時に全責任をとるのは大黒柱ですから、是非大黒柱としての日常・ものの考え方を自分自身の中にしっかり入れていただければと思います。

私の講話は以上で終了です。有難うございました。